

【福井県立科学技術高等学校】 3年間を通して段階的に「探究学習」に取り組む中で

探究学習」の縦のつながり



1年次「ふくい産業」

講演や見学などを通して地域の産業について理解を深める



2年次「産業技術探究」

学習内容を教科・科目・行事等とつなげ、地域産業の課題解決に必要な資質・能力を高める



3年次「課題研究KAGI-Lab」

地域との協働による起業家精神の育成、ものづくりを通じた課題解決



ところが...

プログラムを実施する中で先生方は課題を感じるようになりました

【取り組む上での課題】

産業技術探究の授業は、1学期講義中心であったことから、生徒にとって受け身の活動に偏りがち

【生徒の課題】

与えられた課題はしっかりとできるが、受け身の姿勢になってしまい、「主体性」という面で課題がある

【組織の課題】

一部の教員に過度な負担がかかる体制となっており、学校全体としての活動までには至っていない



そこで、課題を分析し、改善を取り入れたところ...

課題の分析(C)

改善の実施(A)

- 「産業技術探究」のルーブリックを①個人の力 ②他者との関係 ③社会への貢献 の視点から作成・活用し、生徒が自身を内省できる仕組を構築した
- 発表に当たっては、聞いている人に理解してもらえるよう意識して発表するよう生徒に促し、全教員が発表を見て回った
- 普通科教員で評価・分析Gをつくり、職員会議で成果や課題を報告し、全教員 が役割を担うようにした
- 授業を担当している教員のみならず、クラス担任も授業改善に参加するようにした

【成果】 教師の変容 組織の変容

- ルーブリックによる評価は生徒の目標設定につながり、生徒の主体性が高まった。また、教員が指導する際の目標にもなった (生徒・教師の目標の可視化)
- 役割を明確化することや、生徒の取組や変容を共有することにより、教員が自分事として捉えることができ、指導の工夫や組織の体制の在り方について意見がでるなど、生徒の資質・能力を更に高めようとする機運が高まり、組織が活性化した
- 課題解決学習においては教員自身の専門外のことが必要になることが多いことから、他学科の教員に相談するなど学科間の連携も増えるようになった